C グループの発表に関する質疑応答

Cの文献：宮本太郎『生活保障 ―排除しない社会』岩波新書、2009年

A：第2章の3でいわれているような、人々のつながりを維持していくための政策手段として今現在どのようなことが行われているか、どんな傾向があるのか。

→本書では、政策手段として若者を就労に導く技能訓練、若い母親のための保育サービス、雇用における最低賃金制度の整備等が例示されている。

今回はこの点に着目して、現在における状況を考察した。若い母親のための保育サービスという点では、現在都市部における待機児童の増加（保育所の不足）が問題となっている。雇用にかかわる最低賃金制度の整備については、地域における賃金の差が課題となっている。

B：排除しない社会を実現するために、第五章で分権化を謳っているが、それは地域間格差に結びついてしまうのではないか？

→筆者は、分権化を実現する上では地域間格差が起こらないようにすることを前提にしなければならぬ、と述べている。

D：第五章の3で言われている、「生活保護を参加支援に結びつける」ためには具体的にどうしていけばよいのか？

→筆者は、参考にすべき具体策として、1990年代半ばのイギリスの失業保険の改革を挙げている。それは、一定期間の求職者手当の受給のあと、個人アドバイザーがついて職探しを行う、就職できなかった場合はフルタイム職業教育や賃金補助を受けた民間企業への暫定的な就職を義務付ける、という政策である。

以上